

授業科目名	哲学(2000013)		
時間割名	哲学(34206)		
時間割担当	日下耕三		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・4		

授業の目標・概要

人の精神・自我・美意識・時間や空間に対する認識の共有化について考えるとき、科学では解明しきれない様々な課題が存在します。その課題の背後にある真理を探求するのが、哲学のひとつの意味です。

この授業では、より具体的に、<共生>という現代社会の課題を哲学の観点から考察します。<共生>は、いじめやパワハラ、セクハラ、DVなどが頻発し、貧困と社会的排除が劇的に進行する日本社会にとって重要な課題であるとともに、グローバル化のもとで要請される多文化共生を考える際にも不可欠な理念です。その場合、問いは「誰かを排除せずに<共生>することは可能なのか。<共生>は、差別的・排他的な構図でしか成り立たないのか」というようになります。共生と排除とのせめぎあいを、おもに社会哲学と政治哲学の議論を踏まえて考察します。

学習の到達目標

「課題解決能力としての人間力」の養成の方法論の学びが目標である。
 学校や医療現場には、直接的実用性（哲学的気質の生徒や医療対象者の存在）は少ないかもしれないが、間接的には広義の「人間力を養い」にも寄与すること、またそうなることを願っている。
 なぜなら哲学は自律する理性（理性そのものの批判を含め）による批判学としての性格を持つからである。
 また哲学は世界観学としての根本学・全体学でもある。したがって、哲学は現代社会に生きる各自が<個（われ）>として<共生（われわれ）>の課題の解決に他の学同様寄与する一つの営為と考えられるからである。

授業方法・形式

グループごとに、テキスト『哲学の教科書』中島義道 著の輪読と概要の発表。それと並行して各自の哲学的意識とそれを育んだ教師（恩師）を順次紹介してもらう。さらに思索そのものの学びを体験してもらう。そのテキストはいずれも手書きノートで以下のものである。
 「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」と
 「金森利一郎 西洋思想史」の判読。（そのコピーはこちらで用意する。）さらに、受講生の関心と理解に応じて、山田晶 著「アウグスティヌス講話」やジルソン著「存在と本質」やフランクルの書の課題を予定している。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 哲学と思想 中島義道氏の説の批判と検討
- 第3回 哲学と文学 中島義道氏の説の批判と検討
- 第4回 哲学と芸術 中島義道氏の説の批判と検討「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第5回 哲学と人生論 中島義道氏の説の批判と検討 「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第6回 哲学と宗教 中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第7回 哲学と科学 中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第8回 哲学の問い 時間 中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第9回 因果関係 中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第10回 意志 中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第11回 「私」中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第12回 「他人」中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第13回 「存在」中島義道氏の説の批判と検討
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第14回 哲学は何の役に立つか
「安藤孝行 古代哲学講義案ノート」「金森利一郎 西洋思想史」の判読。
- 第15回 まとめ。
恩師（黒岩頼夫／立花隆／金森利一郎／八波浩／森直行／高山要一／服部知文／安藤孝行／山田晶）の哲学について

成績評価の基準

平常点20%（グループワークの参加度・レポート・発表）、レポートまたは試験80%

準備学習・復習及び授業時間外の課題

授業範囲のテキストを読んでおくこと（読めるように最大限の努力をしておくこと。）
 『いま哲学とは何か』岩田靖夫 著 岩波新書 『哲学の現在』中村雄二郎 著 岩波新書

履修上のアドバイス及び留意点

高等学校で、倫理を履修しているか、下記参考書などを読みさしあたっては西洋古代哲学史に知識と興味があること。各自授業に臨むにあたって、わからない言葉の抜出。段落・単元の要旨を書いたノートを持参すること。

教材・教科書

『哲学の教科書』中島義道 著 講談社学術文庫

参考書

『西洋哲学史』古代から中世へ 熊野純彦 岩波新書